

2025年日本国際博覧会 トイレ6



外観

「トイレ6」は、「水」をテーマとした三角断面形状の施設。屋根の階段は休憩所、その下にトイレを備えている。降雨すると屋根をつたって水が流れ、溜まった雨水は再生水としてトイレや屋根の散水に利用される。



案内図・サイン



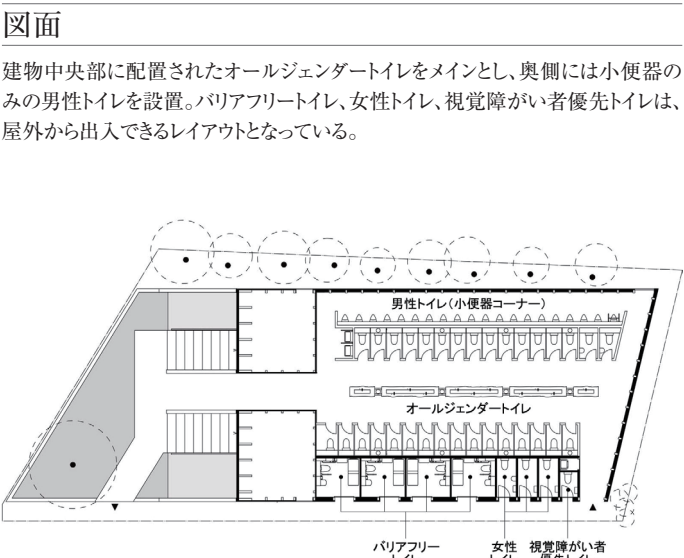
オールジェンダートイレをメインとするため、触知図でもある案内図には、男女別トイレを希望する人への案内として、近辺のトイレの情報も記載。ピクトグラムと文字のサインは、ひと目でわかるように配慮されている。



オールジェンダートイレ全体



メインとなるオールジェンダートイレは、混雑緩和を考慮した一方通行の動線を採用。防犯対策として、入口から出口までをひと目で見渡すことができ、各個室ブース以外に死角を設けない計画としている。



オールジェンダートイレ洗面コーナー

一方通行の空間中央に、両側からのアプローチが可能な洗面コーナーを配置。自立型の鏡を採用することで、施設全体の贅沢な空間の雰囲気と調和している。



オールジェンダートイレ大便器ブース

大便器は、連続洗浄ができるパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。約20秒で次の洗浄ができるため混雑緩和に寄与する。チャームボックスは、内部が見えにくい構造の壁面固定式を選定している。



男性トイレ小便器コーナー

小便器は、床の清掃性や節水性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器を採用。また、小便器コーナーも一方通行レイアウトとなっており、床に掲示した矢印で誘導している。



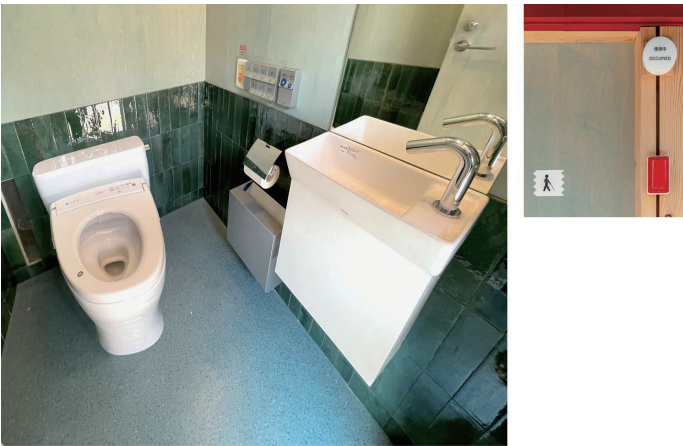
トイレ入口

バリアフリースペース、女性トイレ、視覚障がい者優先トイレは、屋外に出入口を配置。屋内に設置しているオールジェンダートイレの列に並ばずに利用することができる。



バリアフリースペース

車いす使用者やオストメイト、介助が必要な大型ベッド使用者に配慮したバリアフリースペース。同じ仕様のバリアフリースペースを左右勝手違いで設置している。



視覚障がい者優先トイレ

多様な利用者への配慮として視覚障がい者優先トイレを設置。オールジェンダートイレ以外は、トイレ内で用足しから手洗いまで完結できる個室完結型。呼出ボタンが使用された際は、外のランプが光るようになっている。

水まわりの特長

建物の特徴

5年に一度世界1ヶ所のみで実施される国際的イベント「国際博覧会」が大阪市内の夢洲（ゆめしま）で開催。会場内の休憩所やトイレなど計20施設を、公募型プロポーザルにて若手建築家が設計。「トイレ6」は、三角断面形状の「水」をテーマとした施設で、丘のような屋根の階段が休憩スペースとなり、その下にトイレを備えている。雨が降ると屋根の傾斜に沿って水が流れ、溜まった雨水を再生水としてトイレに活用。水が循環するそのプロセスの中に、水と人の多様な出会いをつくり、人々は水にまつわる現象を体感する。また、屋根を少し登ると、会場中央に位置する「静けさの森」を見渡せる。その視線の先には、水によって育まれた豊かな森の風景が広がっている。

トイレの特長

一方通行型の動線を採用したオールジェンダートイレを主とし、奥側に小便器スペースを設けている。バリアフリースペース、女性トイレ、視覚障がい者優先トイレは、屋外から直接個室に出入りする構成となっている。オールジェンダートイレの防犯対策として、トイレ入口から出口までをひと目で見渡すことができ、各個室ブース以外に死角を設けない計画としている。車いす使用者やオストメイト、介助が必要な大型ベッド使用者に配慮したバリアフリースペースは、左右勝手違いで4ヶ所設置し、多様な利用者へ配慮。また、視覚障がい者配慮として、触地図案内板から最も近い位置に視覚障がい者優先トイレを設置。さらに、男女別トイレを希望する人への案内として、近辺のトイレの情報も記載している。

建築概要

名称	2025年日本国際博覧会 トイレ6
所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1-1-20 (2025年日本国際博覧会会場内)
施主	公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
設計	隈 翔平+エルサ・エスコベド／KUMA&ELSA
竣工年月	2025年3月
延床面積	288.98㎡
構造・階数	木造・地上1階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B
ウォシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5831AUP
自動洗浄小便器:UFS900WR
コンパクト・バリアフリースペースバック:UADAK21L1A1ADD2BA
パブリック用折りたたみシート:EWC500R系